

## 委員会要旨

日 時	令和8年3月23日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで
場 所	中央公民館 講義室
件 名	第21回軽井沢町庁舎改築周辺整備事業推進委員会(最終回)
出席者 委 員	池田靖史委員、大工原亮子委員、篠原幸雄委員、饗場晴雄委員、鈴木淳子委員、福原未来委員、柴崎雅寿委員、野村有里委員、船曳鴻紅委員、堀池玲子委員、堀内勉委員、山崎元委員、上田公三委員、佐藤絵里委員、小林久史委員、上原梓委員、小林美智子委員、外川樹美代委員、田村恵美委員、佐藤一貴委員、小林広幸委員
町	町長、小林副町長
事務局	新庁舎周辺整備課 土赤課長、渡辺室長、佐藤(勇)主査、柳澤主査、佐藤(涼)生涯学習課 森課長補佐、柳澤公民館長
設計者	山下設計 窪田 三浦慎建築設計室 三浦
欠 席	島崎直也委員、饗場晴雄委員
1. 開 会	
2. 議 題	
(1) 基本設計(案)について	
ア 総論について…町長より基本設計(案)の総論について説明	
【説明の要旨】	
・就任当初からの基本方針である「凍結・見直し」に基づき、この事業を見直し、昨年度末に策定した基本計画に沿って事業を進めることができた。	
・推進委員会から提案のあった「アドバイザーの採用」や「コミュニケーションの充実」についても実行し、より良い事業の進め方ができている。	
・町の財政の健全性を確認するため、財政シミュレーションも作成した。	
・住民説明会において事業に対して異なる意見も出たが、そこでの意見が住民全体の意見であるというわけではなく、これまで3年間、多くの住民の意見を汲み取った上で判断をし、概ねの合意を持って進めてきた結果が今の設計案であるため、立ち止まらずしっかりと事業を進めていく。	
・「軽井沢町らしさ」という点において重要な要素となる「木質化」について、より木の温かみを感じられるよう実施設計以降も検討を続けていく。	
【主な議論】	
(委 員) 様々な対話を行っていたことは評価するが、前提条件である「事業費」の説明が不十分であったと感じている。	
(町 長) 事業費については、一年前に120億で示したうえで、今年度対話を実施している。また事業費について住民の関心も高いことを承知しているので、財政計画の作成を指示し、説明をした。	
(委員長) 町長から木質化について言及いただいたので、実施設計等で何らかの形で推進してほしい。	
イ 各論について…担当課より基本設計(案)についての各論(住民説明会・パブコメ・LCC)についての説明	
【説明の要旨】	
○住民説明会	
・二日間開催し、延べ78名の参加があった。	
・事業費については、高いという意見もあれば、物価上昇は不可抗力あるためコンストラクションマネジメントの管理のもと進めるべきといった両論があった。	
・住民参画については、改めて対話の場を設けてほしいといった意見がある一方、これまで十分に意見を取り入れながら進めてきているので現行の説明の方法で良いとの両論があった。	

○パブリックコメント

- ・21名からコメントをいただいたが、多くは住民説明会においていただいた意見と重複する内容であった。
- ・パブリックコメントについての町の考え方をまとめてHPに掲載する。

○LCC(ライフサイクルコスト)

- ・省エネ効果がある建物にするために、建設コストが増加しても、長い期間で見ると、運用コストの削減により、結果として財政負担を抑えることができる。
- ・現庁舎と中央公民館の運用コストを比較した場合に、光熱水費を抑えることができる。

【主な議論】

(委 員) 今後のコスト管理のタイミングや方法はどのように考えているか。

(町 長) 市場調査を踏まえて、物価上昇のリスクのチェックは定期的に行うことはもちろん、事業費を管理するための体制づくりについて、コンストラクションマネジメントという選択肢も含めて検討をしていく。いずれにしても、情報発信は定期的に行っていく。

(委 員) コンストラクションマネジメントについてはアドバイザーではなく、業務委託というかたちでプロフェッショナルを導入してもらいたい。

(委 員) LCCの算出について、将来の維持管理費がどうなるかわからない中で、供用期間は100年ではなく、60年で算出するべきではなかったか。

(設計者) 100年建築というコンセプトのもと、建物本体の供用年数を100年にしているのでもLCCもそれに合わせた計算をしている。

(委 員) 軽井沢町はゼロカーボン宣言をしているので、この事業に関してもZEBをより推進したり、スクラップ&ビルドを極力減らしたりするリノベーションの方針の方が良いのではないか。

(町 長) 創エネに関する太陽光発電については、ペロブスカイトを国が推進していることを勘案していることなどを勘案して現時点では設置しない方針で判断をした。また、エネルギー問題などについては、近隣の町村も含めて、浅間ゼロカーボンコンソーシアムを設立し、地域全体で課題解決をしていく方針を示している。

(委 員) 中庭の落雪についての対策や、落下防止の安全対策は万全か。

(設計者) 雪止めによる対策や、万が一の場合の落雪のシミュレーションなどを実施し、人が通るような場所に落雪がないように検討を進めている。また当然中庭には手摺を設けてあるので落下対策もしている。

(委 員) 職員のフリーアドレスの実現可能性について、町職員にどの程度浸透しているのか。

(事務局) 職員説明会などを通じて都度説明しているので一定の理解はあると認識している。また、完全なフリーアドレスではなく、課ごとのグループアドレスを想定しているのでも住民の皆さんにとってわかりやすいレイアウトにしていく。

(2) その他(今後のスケジュールについて)

- ・この委員会の後に速やかに基本設計の策定を進めていく。来年度は実施設計で、令和9年度に工事発注を行い、約2年をかけて令和11年の供用開始を目指していく。
- ・本委員会については、見直し当初から約2年半活動をしていただいたが、基本設計の策定をもって一区切り(解散)とすることとなったが、今後も何らかのかたちで協力をいただく。

3. 閉 会

以 上